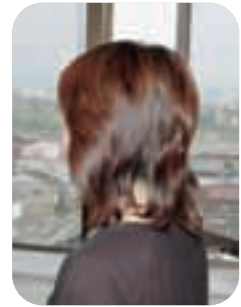


ごみの行方を追いました

各家庭から出されたごみは、どのようにして処理されているのでしょうか。

可燃ごみの行方を追ってみました。

家庭



市内在住
Aさん

わたしの家庭は、夫とわたし、小学生の子ども2人の4人家族です。可燃ごみの量は、1週間で2袋ぐらいです。子どもが小さいこともあり、ごみの量は少ない方だと思います。

以前、PTAの役員をしていたので、新聞紙や紙パックなどは分別して、学校の資源回収に出しています。

また、ペットボトルや食品トレイなどは、自治会の役員さんたちが集積場で集めてみえますので、そこへ出すようにしています。

先日、子どもが学校で「きらきらエコハウス」などごみの勉強をしたことを話してくれました。まだ分別できる物が多くあることを、子どもにも教えられました。



ごみ集積場



市自治連合会長
渡辺勝則さん
(川合町)

集積場については、自治会などで管理をしています。ごみ出しのルールを守らない人がまだみられます。自治会未加入者や外国人が増え、ルールやマナーを知らない人も多いと思われます。

わたしたちの自治会では、自治会員の皆さんに常日ごろから集積場に目を向けてもらい、ルール・マナーの指導をしていただいています。これは、「自分たちのまちは自分たちで管理する」という意識向上のためのものです。

回収されなかったごみについては、自治会長が家に持ち帰り、正規の袋に入れ直し、次の収集日に自治会長名で出しているという現実も知っていただき、正しいごみ出しを守ってもらいたいですね。



ごみ収集車



小森産業㈱
吉田拓磨さん

ここ数年、ごみの量が増加しています。人口増に伴ってアパートなどが増えたこともあるでしょうが、リサイクルできるものが、可燃ごみに混ざっているのではないのでしょうか。もう少し一人一人が努力すれば、ごみの量も減らすことができると思います。

また、市指定の袋でない場合や、缶などの不燃物が混ざっていたら収集しないこともあります。しかし、現場で確認するには限度があります。袋の中の見えない部分については皆さんを信じるしかありません。ごみ出しのルールやマナーは、最終的には個人のモラルの問題になると思います。正しく出して、きれいなまちにしたいですね。

